とりだい病院ニュース
Tottori University Hospital **News**

No.31
2014年 6月号

発行／鳥取大学医学部附属病院（総務課広報係）
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1 TEL.0859-38-7037
http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/
電話番号案内 TEL.0859-33-1111

理念
健康の喜びの共有

鳥取大学医学部附属病院
心臓血管外科
西村 元延 診療科長

中国地方 初

補助人工心臓 植込み手術に成功

チーム医療でまもる大切ないのち

鳥大病院は、2012年1月に認定された中国地方で唯一の実施施設です。

山陰の患者さんが補助人工心臓の植込み手術を受けるためには、これまで東京・関西・九州などに行かなければなりませんでした。

今回の成功により、医療の地域間格差の解消へ、また一歩前進しました。

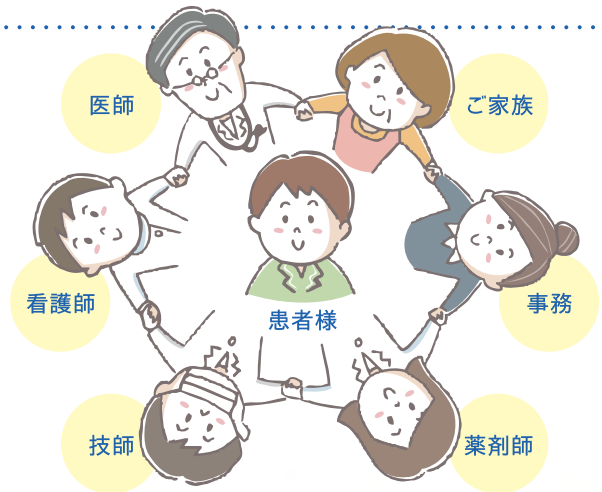
植込み型補助人工心臓とは

植込み型補助人工心臓は、十分に血液を送り出せなくなった心臓を補助するために、心臓の隣にポンプを植込み、血液を全身に送る装置です。心臓と補助人工心臓をパイプでつなぎ、側腹部から体外へ出てくるケーブルでコントローラーという装置と接続し駆動させ心臓の働きを補助する仕組みになっています。動力源は充電式バッテリーで、コントローラーとバッテリーを肩から下げて持ち運びます。

装着の対象は心臓移植を待つ患者さんで、６５歳未満であること、心臓以外に大きな病気がないことなどいくつかの条件はありますが、大型だった昔の補助人工心臓とは違い、小型化され自宅で生活しながら移植を待つことができますし、2011年4月に保険適用となり、患者さんの負担が大幅に軽減されました。また、心臓移植が必要な患者さんの１年生存率は約50%ですが、植込み型補助人工心臓を装着することで90%以上に高まります。

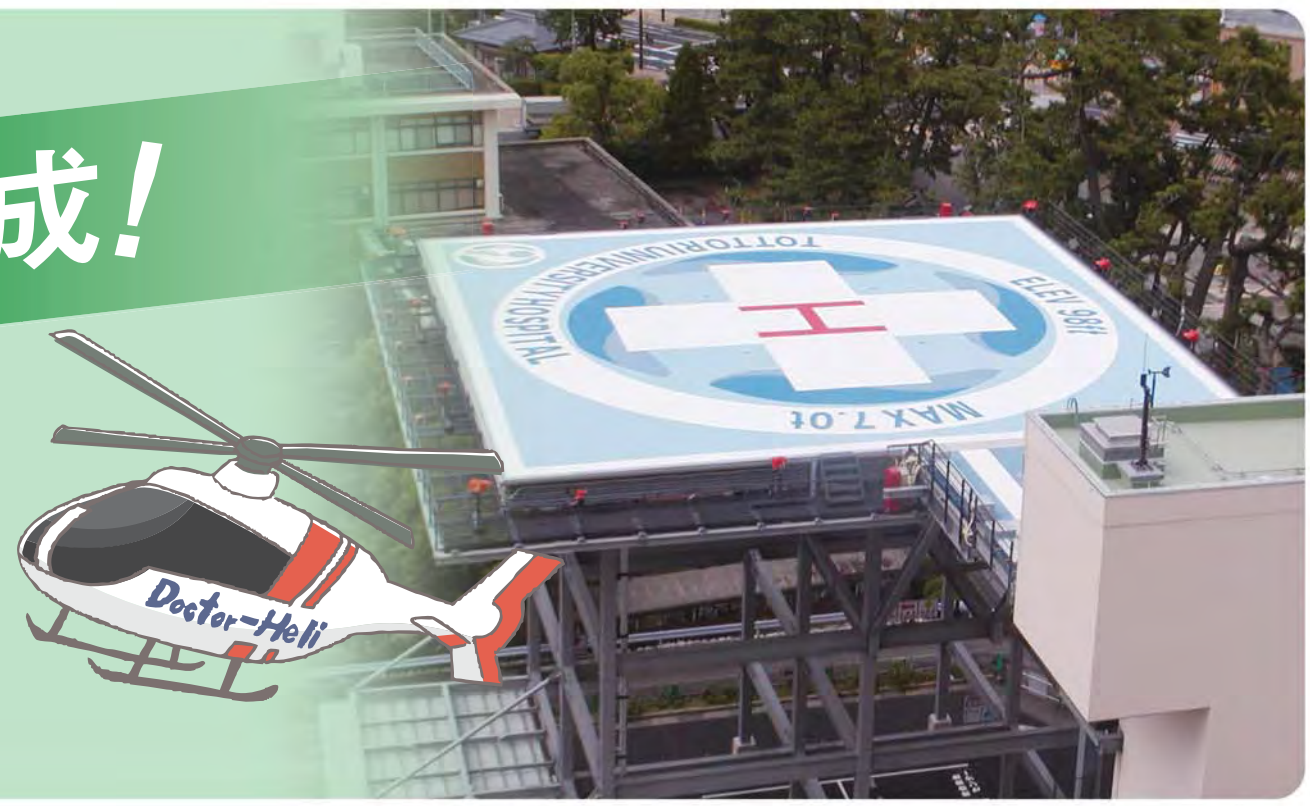
術前・術後の管理から退院後の生活までサポート

今回の手術成功の大きな要因の一つは、ハートチームと呼ばれる、診療科や職種の垣根を越えた循環器分野における多職種連携、チーム医療によるものです。例えば、機器の取り扱いなどの自己管理トレーニングは、プログラムに沿って臨床工学技士を中心に人工心臓管理技術認定士など複数の職種で行います。また、帰宅後の日常生活を安全に送っていただけるよう、自己管理に向けて患者さんとご家族への指導は、看護師が主となり医師などと連携して行います。患者さんはほぼ従来どおりの生活に戻ることができ、移植まで希望を持って自宅療養ができます。術前だけではなく徹底した術後管理や自宅復帰後のサポートなど、患者さんの未来を考えたチーム医療、これこそが鳥大病院の連携力です。



広範囲に及ぶいのちを守る
ヘリポート完成！

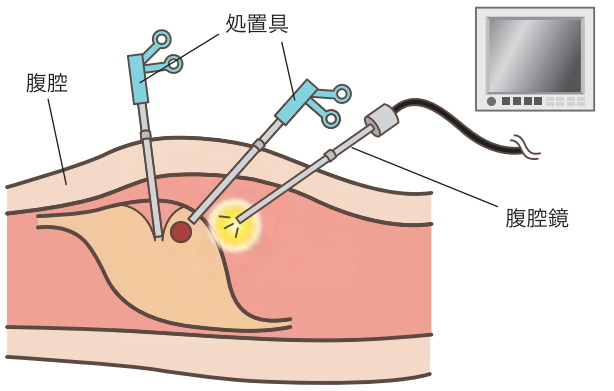
救命救急センターに隣接したヘリポートが6月上旬完成、7月上旬から運用が開始されます。これにより搬送時間の短縮による救命率の向上や、県境を越えた広範囲に及ぶ緊急性への対応が可能となります。また、県災害拠点病院として、さらなる緊急医療連携の強化をはかり、地域へ貢献していきます。

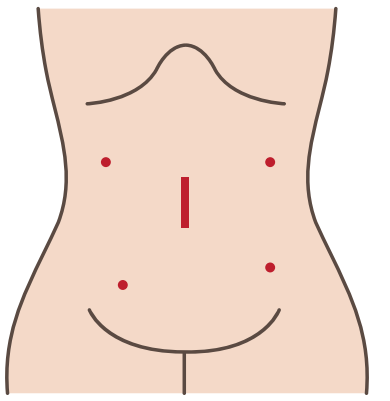


消化器外科における腹腔鏡手術

～患者さんに負担の少ない手術療法～

鳥取大学医学部附属病院
第一外科診療科群
池口正英 主任診療科長





腹腔鏡手術とは、お腹の4～5か所に1㎝～2㎝の傷をつけ、専用のカメラ（腹腔鏡）を挿入して二酸化炭素を注入します。お腹は風船のように膨らみ、大きな空間が形成され、専用の処置具を入れモニターを見ながら手術を行います。傷が小さく、術後の痛みが軽減され、治りが早く入院期間も短くすむため、速やかな社会復帰が可能となる、患者さんにやさしい手術です。消化器外科では、胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がん、膵臓腫瘍、胆石などの疾患が対象となります。手術には熟練が必要で、本院には高度な技術を持ち、手術を安全かつ適切に行い、さらには指導する技術を持つと判断された日本内視鏡外科学会技術認定医が7名、その内、消化器外科には5名の認定医がおります。
また、認定施設として内視鏡外科技術認定医、肝胆膵手術高度技能医、食道外科専門医など、高度な技能を備えた専門医を地域に輩出し、さらなる最先端の技術を安心とともに皆様に提供していきます。

くつろぎの空間

外来ロビー「ほっとラウンジ」

Renewal Open

来院するすべての方へ「居心地のよい空間」「おもてなしの心」の提供を目指し、外来ロビーを「ほっとラウンジ」と名付けリニューアルいたしました。院内図書室、情報検索コーナーを移転しコーヒーショップ「タリーズ」を併設しております。パブリックスペースとして地域の皆様にご利用いただけます。

カフェスペース

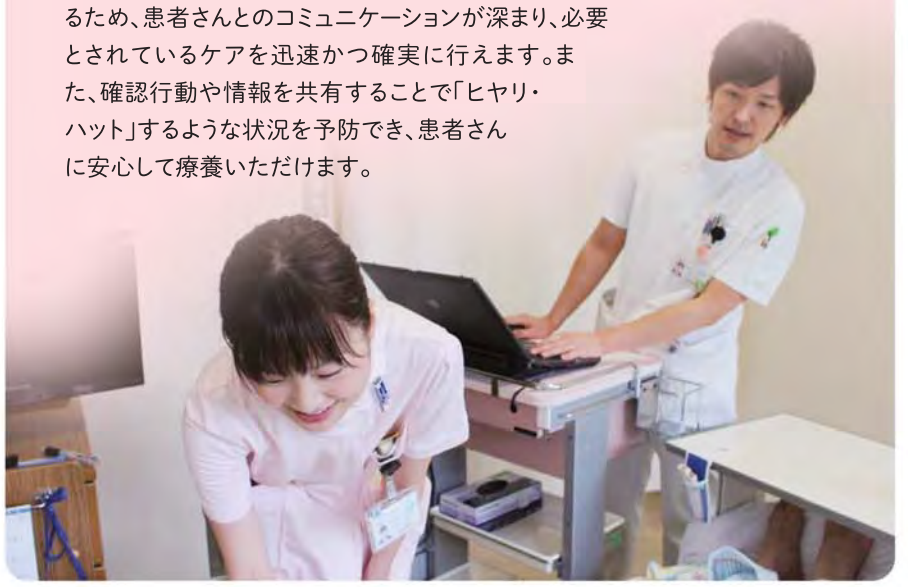
院内図書スペース

ほっとラウンジ

ナースがつなぐ信頼

第1回 ナースと患者さん

患者さんに安全で質の高い看護を行うために、鳥大病院では「とりりんパートナーシップ　ナーシングシステム」を取り入れています。このシステムは、患者さん一人に対し、看護師が二人一組で、看護の役割分担を行います。一人で行う看護に比べ、患者さんの側にいる時間が増えるため、患者さんとのコミュニケーションが深まり、必要とされているケアを迅速かつ確実に行えます。また、確認行動や情報を共有することで「ヒヤリ・ハット」するような状況を予防でき、患者さんに安心して療養いただけます。



とりだい病院 栄養管理部発案

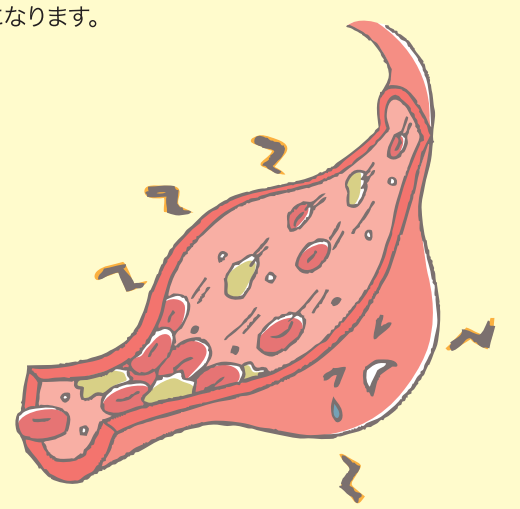
血管をこわさない食事

プロローグ

生きるために必要な栄養素は、血液により全身に運ばれ、その通り道となるのが血管です。長期間に渡り大量の栄養素が流れると、血管はこわれ始め、高血圧、脂質異常症、糖尿病の要因となります。さらに、脳卒中や心筋梗塞の危険性も増します。血管がこわれると元には戻らないため、生涯を通じて良い状態に保つことが重要であり、健康寿命を延ばす秘訣になります。

血管をこわさない食事のポイントは3つ!

1. 塩分は控えめに
2. 油脂類を控えてビタミンをたっぷり
3. 糖質を控えて食物繊維をたっぷり



では、実際にどんな食事をすると大切な血管を守れるのでしょうか？次号から3回にわたり「血管をこわさない食事」をテーマに献立をご紹介します。お楽しみに。